



COPY OF PAPERS
ORIGINALLY FILED

#4
Priority Papers
PATENT
450100-03492

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Susumu SENSU
Serial No. : 09/955,393
Filed : September 18, 2001
For : OPTICAL DISK, OPTICAL DISK PLAYBACK
APPARATUS, AND OPTICAL DISK PLAYBACK METHOD,
OPTICAL DISK RECORDING APPARATUS AND OPTICAL
DISK RECORDING METHOD, AND RECORDING MEDIUM
Art Unit : 2133

745 Fifth Avenue
New York, New York 10151
Tel. (212) 588-0800

I hereby certify that this correspondence is being
deposited with the United States Postal Service as
first class mail in an envelope addressed to:
Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231, on December 17, 2001

Glenn F. Savit, Reg. No. 37,437

Name of Applicant, Assignee or
Registered Representative

Signature

December 17, 2001

Date of Signature

CLAIM OF PRIORITY

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

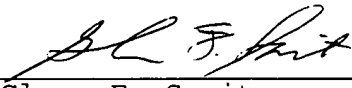
In support of the claim of priority under 35. U.S.C.
§ 119 asserted in the Declaration accompanying the above-entitled
application, as filed, please find enclosed herewith a certified
copy of Japanese Application No. 2000-283387, filed in Japan on
19 September 2000 forming the basis for such claim.

PATENT
450100-03492

Acknowledgment of the claim of priority and of the
receipt of said certified copy(s) is requested.

Respectfully submitted,

FROMMER LAWRENCE & HAUG LLP
Attorneys for Applicant

By: 
Glenn F. Savit
Reg. No. 37,437
Tel. (212) 588-0800

Enclosure(s)



日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

501P1430US00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2000年 9月19日

出願番号

Application Number:

特願2000-283387

出願人

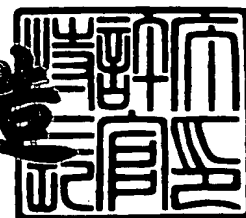
Applicant(s):

ソニー株式会社

2001年 6月20日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3057977

【書類名】 特許願

【整理番号】 0000638607

【提出日】 平成12年 9月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 20/12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 千秋 進

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100082131

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲本 義雄

【電話番号】 03-3369-6479

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 032089

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708842

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光ディスク、光ディスク再生装置、および光ディスク再生方法、光ディスク記録装置、および光ディスク記録方法、並びに記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、
読み出しのみ可能な第 2 の領域と
を備え、

前記第 1 の領域に記録される第 1 のデータは、第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で記録され、

前記第 1 の領域に記録される第 2 のデータは、第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録され、

前記第 2 の領域に記録される第 3 のデータは、前記第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録される

ことを特徴とする光ディスク。

【請求項 2】 前記第 1 の領域に記録される前記第 1 のデータは、所定のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造を有し、

前記第 2 の領域に記録される前記第 3 のデータは、前記第 1 のデータと同一の前記フレーム構造および前記誤り訂正のためのブロック構造を有する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の光ディスク。

【請求項 3】 前記第 1 の領域に記録される前記第 1 のデータのフレーム長と、前記第 2 の領域に記録される前記第 3 のデータのフレーム長は、簡単な整数比とされる

ことを特徴とする請求項 1 に記載の光ディスク。

【請求項 4】 前記第 1 のデータの a フレーム分の長さに、前記第 3 のデータが b フレーム分記録可能である場合、前記第 3 のデータのフレーム長は、前記第 1 の領域のデータ記録密度 c と、前記第 2 の領域のデータ記録密度 d との記録密度比率 c/d に対して、 b/a ができるだけ近い値となるように設定される

ことを特徴とする請求項 3 に記載の光ディスク。

【請求項 5】 前記第 1 のデータの a フレーム分の長さに、前記第 3 のデー

タがbフレーム分記録可能である場合、前記第3のデータのフレーム長は、aができるだけ小さな整数となるように設定される

ことを特徴とする請求項3に記載の光ディスク。

【請求項6】 前記第1の領域は、前記第1のデータをクラスタ単位で記録再生するために必要な第4のデータを記録するための第3の領域を含み、

前記第2の領域には、前記第2のデータが記録されるとともに、前記第2のデータが記録されていない領域には、前記第3のデータが、その全部に渡って記録されている

ことを特徴とする請求項1に記載の光ディスク。

【請求項7】 前記第1の領域は、前記第1のデータを複数のセグメントをまたいで記録再生するために必要な第4のデータを記録するための第3の領域を含み、

前記第2の領域には、前記第2のデータが記録されるとともに、前記第2のデータが記録されていない領域には、前記第3のデータが、その全部に渡って記録されている

ことを特徴とする請求項1に記載の光ディスク。

【請求項8】 前記第1の変調方法は、RL L (1, 7) 変調であり、前記第2の変調方法は、RL L (2, 7) 変調である

ことを特徴とする請求項1に記載の光ディスク。

【請求項9】 前記第1の記録方式は、相変化による記録方式であり、前記第2の記録方式は、ピットによる記録方式である

ことを特徴とする請求項1に記載の光ディスク。

【請求項10】 前記第1の記録方式は、光磁気記録による記録方式であり

前記第2の記録方式は、ピットによる記録方式である

ことを特徴とする請求項1に記載の光ディスク。

【請求項11】 読み出しと書き込みの両方が可能な第1の領域と、読み出しのみ可能な第2の領域とを含む光ディスクに記録されているデータを再生する光ディスク再生装置において、

前記第 1 の領域に記録されている第 1 のデータおよび前記第 2 の領域に記録されている第 2 のデータを第 1 の復調方法で復調する第 1 の復調手段と、

前記第 1 の復調手段により復調された前記第 1 のデータに基づいて、前記第 1 の領域に記録されている第 3 のデータを第 2 の復調方法で復調する第 2 の復調手段と

を備えることを特徴とする光ディスク再生装置。

【請求項 1 2】 前記第 2 の復調手段により復調された前記第 3 のデータ、および、前記第 1 の復調手段により復調された前記第 2 のデータの誤り訂正を行う誤り訂正手段

を更に備えることを特徴とする請求項 1 1 に記載の光ディスク再生装置。

【請求項 1 3】 前記第 1 の復調方法は、RLL (2, 7) 復調であり、前記第 2 の復調方法は、RLL (1, 7) 復調であることを特徴とする請求項 1 1 に記載の光ディスク再生装置。

【請求項 1 4】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを含む光ディスクに記録されているデータを再生する光ディスク再生装置の光ディスク再生方法において、

前記第 1 の領域に記録されている第 1 のデータおよび前記第 2 の領域に記録されている第 2 のデータを第 1 の復調方法で復調する第 1 の復調ステップと、

前記第 1 の復調ステップの処理により復調された前記第 1 のデータに基づいて、前記第 1 の領域に記録されている第 3 のデータを第 2 の復調方法で復調する第 2 の復調ステップと

を含むことを特徴とする光ディスク再生方法。

【請求項 1 5】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを含む光ディスクに記録されているデータを再生する光ディスク再生装置用のプログラムであって、

前記第 1 の領域に記録されている第 1 のデータおよび前記第 2 の領域に記録されている第 2 のデータを第 1 の復調方法で復調する第 1 の復調ステップと、

前記第 1 の復調ステップの処理により復調された前記第 1 のデータに基づいて、前記第 1 の領域に記録されている第 3 のデータを第 2 の復調方法で復調する第

2 の復調ステップと

を含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【請求項 1 6】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを含む光ディスクにデータを記録する光ディスク記録装置において、

前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録するための第 1 のデータの入力を受ける入力手段と、

前記入力手段により入力された前記第 1 のデータを変調する変調手段と、

前記変調手段により変調された前記第 1 のデータを前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録する記録手段と

を備え、

前記第 1 の領域には、第 2 のデータが第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記第 2 の領域には、第 3 のデータが前記第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記変調手段は、前記第 1 の変調方式と異なる第 2 の変調方式で、前記第 1 のデータを変調し、

前記記録手段は、前記第 1 の記録方式と異なる第 2 の記録方式で、前記第 1 のデータを前記光ディスクに記録する

ことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 1 7】 前記第 2 の領域には、所定のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造で、前記第 3 のデータが予め記録されており、

前記記録手段は、前記第 3 のデータと同一の前記フレーム構造および前記誤り訂正のためブロック構造で、前記第 1 のデータを前記光ディスクに記録する

ことを特徴とする請求項 1 6 に記載の光ディスク記録装置。

【請求項 1 8】 前記第 1 の変調方法は、RLL (2, 7) 変調であり、

前記第 2 の変調方法は、RLL (1, 7) 変調である

ことを特徴とする請求項 1 6 に記載の光ディスク記録装置。

【請求項 1 9】 前記第 1 の記録方式は、ピットによる記録方式であり、
前記第 2 の記録方式は、相変化による記録方式である
ことを特徴とする請求項 1 6 に記載の光ディスク記録装置。

【請求項 2 0】 前記第 1 の記録方式は、ピットによる記録方式であり、
前記第 2 の記録方式は、光磁気記録による記録方式である
ことを特徴とする請求項 1 6 に記載の光ディスク記録装置。

【請求項 2 1】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを含む光ディスクにデータを記録する光ディスク記録装置の光ディスク記録方法において、

前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録するための第 1 のデータの入力を受ける入力ステップと、

前記入力ステップの処理により入力された前記第 1 のデータを変調する変調ステップと、

前記変調ステップの処理により変調された前記第 1 のデータを前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録する記録ステップと

を含み、

前記第 1 の領域には、第 2 のデータが第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記第 2 の領域には、第 3 のデータが前記第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記変調ステップの処理では、前記第 1 の変調方式と異なる第 2 の変調方式で、前記第 1 のデータを変調し、

前記記録ステップの処理では、前記第 1 の記録方式と異なる第 2 の記録方式で、前記第 1 のデータを前記光ディスクに記録する

ことを特徴とする光ディスク記録方法。

【請求項 2 2】 読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを含む光ディスクにデータを記録する光ディスク記録装置用のプログラムであって、

前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録するための第 1 のデータの入力を受け

る入力ステップと、

前記入力ステップの処理により入力された前記第 1 のデータを変調する変調ステップと、

前記変調ステップの処理により変調された前記第 1 のデータを前記光ディスクの前記第 1 の領域に記録する記録ステップと

を含み、

前記第 1 の領域には、第 2 のデータが第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記第 2 の領域には、第 3 のデータが前記第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録されており、

前記変調ステップの処理では、前記第 1 の変調方式と異なる第 2 の変調方式で、前記第 1 のデータを変調し、

前記記録ステップの処理では、前記第 1 の記録方式と異なる第 2 の記録方式で、前記第 1 のデータを前記光ディスクに記録する

ことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、光ディスク、光ディスク再生装置、および光ディスク再生方法、並びに記録媒体に関し、特に、読み出しと書き込みの両方が可能な RAM 領域と、読み出しのみ可能な ROM 領域を有する光ディスクに、RAM 領域と ROM 領域のいずれにも最適な記録方式および変調方式でデータを記録し、かつ、このような光ディスクを、再生装置の回路構成を複雑にすることなく再生することを可能とする、光ディスク、光ディスク再生装置、および光ディスク再生方法、並びに記録媒体に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

デジタルデータを記録・再生するための技術として、例えば、CD (Compact

Disk) , MD (Mini-Disk) , DVD (Digital Versatile Disk) などの、光ディスク (光磁気ディスクを含む) を記録メディアに用いたデータ記録技術がある。光ディスクとは、金属薄板をプラスチックで保護した円盤に、レーザ光を照射し、その反射光の変化で信号を読み取る記録メディアの総称である。光ディスクには、再生専用型 (Read Only) と記録型 (DRAW/Direct Read After Write) があり、記録型には追記型 (Write Once) と書き換え可能型 (Erasable) がある。

【0003】

一般的に、再生専用型、もしくは、追記型の光ディスクの記録面には、記録されたデータに対応して、凹凸が形成される。凹の部分ピット (pit) 、凸部分をランド (land) という。光ディスクに記録されたデータを読み取る場合、凹凸部分にレーザ光が照射され、その反射光の光密度の変化によって、記録された情報が読み取られる。

【0004】

書き換え可能型の光ディスクは、1度記録した信号を消して、その上に新たな信号を上書きすることができる。書き換え可能型の光ディスクとしては、例えば、レーザ光を用いて、光ディスクの結晶構造を変化させることでデータを記録し、結晶構造の変化 (結晶、非結晶) によって反射率が異なることを利用して「0」と「1」を読み取ることができる相変化型光ディスクなどがある。

【0005】

CDは、音楽用のデジタルデータを記録/再生するために、考案され、規格化されたデジタルオーディオディスクであり、広く一般に普及している。このCDを音楽データだけでなく、コンピュータなどで利用可能な、デジタルデータの読取専用の記録媒体として応用したものが、CD-ROM (Compact Disk-Read Only Memory) である。そして、その後、追記型のCD-R (Compact Disk-Recordable) 、書き換え可能型のCD-RW (Compact Disk-ReWritable) が開発された。

【0006】

MOは、書き換え可能型の光磁気ディスクである。MOでのデータの記録は、フロッピーディスクやハードディスクなどと同様に、磁気を利用し (ただしフロ

ッピーディスクなどと、記録方法は異なる）、光学技術によって、書き込みの精度をあげることで高密度記録を実現するものである。具体的には、光学ヘッドがデータを書き込む位置に、細いレーザ光線をあて、その部分を記録可能な状態にしてから磁気ヘッドでデータを書き込むようになされている。一方、1度書き込んだデータの読み出しにおいては、光学ヘッドだけが利用される。

【0007】

DVDには、読み出し専用のDVD-ROM、一度だけ書き込み可能なDVD-R、書き換えが可能なDVD-RAMがある。これらは、CDでいえば、それぞれCD-ROM、CD-R、CD-RWに対応するものである。DVDでは、CDよりも記録密度を高めるために、トラックピッチやピットサイズを縮小し、データを読み書きするための光学ピックアップ（光学ヘッド）に対するトラック移動の線速度（ディスクの回転速度）を、1倍速CDの約3.3倍の高速にしている。このように高密度化されたピットを正しく読み取るために、DVDでは、光学ピックアップからCDよりも短波長（650nmまたは635nm）のレーザ光を照射するようになされている。

【0008】

図1は、従来の光ディスクの記録再生装置1の構成を示すブロック図である。

【0009】

I/F（Inter face）部11は、アプリケーション・ブロック（図示せず）から入力されたデータを、調停部12に供給したり、調停部12から供給されたデータを、アプリケーション・ブロックに出力する。調停部12は、I/F部11、ECC（Error Check and Correct）部14、および変復調部15と、バッファメモリ（buffer memory）13との調停、すなわちデータの授受の制御を行う。

【0010】

バッファメモリ13は、処理を高速化するために、光ディスク19から読み出されたか、もしくは光ディスク19に記録するためのデータ（すなわち、調停部12を介して、変復調部15と授受されるデータ）と、誤り訂正符号およびアプリケーション上のデータ（すなわち、調停部12を介して、ECC部14もしくは

は I/F 部 11 と授受されるデータ) を交互配置する (すなわち、インターリーブする) ために利用される。ECC 部 14 は、データの再生時には、調停部 12 から入力されたデータに誤り訂正処理 (decode) を行い、データの記録時には、調停部 12 から入力されたデータを誤り訂正符号化 (encode) する。

【0011】

変復調部 15 は、データの再生時には、信号検出部 20 から入力されたデータを、タイミングジェネレータ 22 から入力されるタイミング信号に基づいて、RLL (Run Length Limited Code) (1, 7) 復調方式で復調するなどの所定の処理を実行し、調停部 12 に出力する。また、変復調部 15 は、データの記録時には、調停部 12 から入力されたデータを、RLL (1, 7) 変調方式で変調し、例えば、シンクビットの挿入などの所定の処理を施して、レーザドライバ 16 に出力する。

【0012】

なお、RLL (a, b) (a, b は、ともに整数) 変調とは、連続する「0」の数を制限する変調方式であり、連続する「0」が a 以上 b 以下となるように符号を定めるものである。

【0013】

レーザドライバ 16 は、光ディスク 19 にデータを記録させる場合、変復調部 15 から入力されたデータに従って、光学ヘッド 17 の図示しないレーザダイオードをドライブし、光ディスク 19 にレーザ光を照射させ、データを書き込ませる。レーザドライバ 16 は、光ディスク 19 に記録されているデータを読み込む場合、光学ヘッド 17 のレーザダイオードをドライブし、光ディスク 19 にレーザ光を照射させる。

【0014】

レーザダイオードから照射されたレーザ光は、光ディスク 19 の記録面に形成されたトラックに照射されて反射し、光学ヘッド 17 内の、図示しないフォトディテクタ (光検出器) によって受光される。トラック上のピットのない平坦な部分では、レーザ光がそのまま反射されるため、反射光の光密度が大きい。ピットがある部分では、反射光が拡散され、光密度が小さくなる。フォトディテクタ

は、この光密度の変化を検出し、これを電気信号に変えて、信号検出部 2 0 に出力する。

【 0 0 1 5 】

スピンドルモータ 1 8 は、図示しないドライバによって駆動され、光ディスク 1 9 を回転させる。

【 0 0 1 6 】

信号検出部 2 0 は、光学ヘッド 1 7 から供給された電気信号から、光ディスク 1 9 に記録されている信号を検出し、変復調部 1 5 に供給するとともに、ID (Identification Data) 部 2 1 に供給する。ID 部 2 1 は、RLL (2 , 7) 復調を行い、供給されたデータに含まれる、プリビットアドレスに対応する ID 情報を再生する。ID 情報とは、データフレームの再生位置を管理するためのデータである。

【 0 0 1 7 】

タイミングジェネレータ 2 2 は、ID 部 2 1 で再生された ID 情報を基に、変復調部 1 5 で実行されるデータの復調のためのタイミング信号を生成し、変復調部 1 5 に出力する。

【 0 0 1 8 】

アプリケーションから入力されたデータを光ディスク 1 9 に記録させる場合、I / F 部 1 1 は、入力されたデータを、調停部 1 2 を介して、バッファメモリ 1 3 に供給する。このデータは、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 から読み出されて、ECC 部 1 4 に供給され、誤り訂正符号化され、再び、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 に蓄積される。

【 0 0 1 9 】

そして、バッファメモリ 1 3 に蓄積された、誤り訂正符号化されたデータは、所定のタイミングで、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 から読み出されて、変復調部 1 5 に供給され、RLL (1 , 7) 変調などの所定の処理が施され、レーザドライバ 1 6 に出力される。レーザドライバ 1 6 は、光学ヘッド 1 7 の図示しないレーザダイオードをドライブし、光ディスク 1 9 にレーザ光を照射させ、データを書き込ませる。

【0020】

光ディスク19に記録されているデータの再生時には、光学ヘッド17で電気信号に変換されたデータが、信号検出部20で読み取られ、変復調部15に供給される。信号検出部20は、ID部21にも読み取った信号を供給する。ID部21において、RL(2, 7)復調により、ID情報が復調され、タイミングジェネレータ22において、復調処理のためのタイミング信号が生成されて、変復調部15に供給される。変復調部15は、タイミングジェネレータ22から供給されたタイミング信号に基づいて、入力されたデータをRL(1, 7)復調する。復調されたデータは、調停部12を介して、バッファメモリ13に供給され、蓄積される。

【0021】

バッファメモリ13に蓄積された、復調後のデータは、調停部12の処理により、バッファメモリ13から読み出されて、ECC部14に供給されて、誤り訂正がなされ、再び、調停部12の処理により、バッファメモリ13に蓄積される。誤り訂正されたデータは、調停部12の処理により、所定のタイミングで読み出され、I/F部11を介して、アプリケーションに出力され、例えば、図示しないモニタもしくはスピーカに出力され、再生される。

【0022】

ここで、ECC部14およびI/F部11が扱うデータ方向と、変復調部15が扱うデータ方向とは、バーストエラーに対する訂正能力を確保するため、バッファメモリ13において、異なる方向になるように蓄積される。すなわち、これらのデータは、インターリーブされている。

【0023】

【発明が解決しようとする課題】

CDは、最初にROMディスクとして開発され、その後、RAMディスクが開発された。しかしながら、CDは、セクタライズされたフォーマット形式をもたないので、RAMディスクにデータを記録する場合には、記録されるデータのリンキングを考慮する必要がある。このため、リンキングに要する分、RAMの記憶容量が減少してしまう。

【 0 0 2 4 】

MOは、最初にRAMディスクとして開発されたディスクである。MO内のROMデータを記録させるための領域と言えるものとして、セクタ長、反射率、再生パワー、メディアの種類等の情報が記録されるPEP (Phase Encoded Part) 領域がある。しかしながら、MOのPEP領域には、わずかな情報量しか記録することができず、ある程度の記憶容量を有するROM領域をもつMOは、商品化されていない。

【 0 0 2 5 】

DVDは、最初にROMディスクとして開発され、その後、RAMディスクであるDVD-RAMが開発された。しかしながら、ROMディスクであるDVDと、DVD-RAMは、ディスクフォーマット形式や、セクタへのアクセス制御が異なる。また、回転方式も、DVDでは、CLV (Constant Linear Velocity) 方式を採用しているのに対して、DVD-RAMでは、Zoned-CLV方式を採用している。

【 0 0 2 6 】

CLV (Constant Linear Velocity) 方式とは、内周／外周にかかわらず、データ読み取り、もしくは書き込みのための光学ピックアップ（例えば、図1の光学ヘッド17）に対する記録面の移動速度を一定（すなわち、線速度一定）にしてデータを読み書きする方式である。Zoned-CLV方式とは、ゾーン内では、常に一定の回転速度でディスクを回転させながら（すなわち、角速度一定）、データの読み書きを行うCAV (Constant Angular Velocity) 方式を用い、ゾーンが変われば、回転数が変化する方法である。

【 0 0 2 7 】

このように、RAM領域およびROM領域を有し、RAM領域とROM領域のいずれにも、自由にアクセスすることができ、かつ、ROM領域がある程度のデータ記憶容量を有する光ディスクは、実現されていない。

【 0 0 2 8 】

しかしながら、光ディスクに情報を記録するにあたり、データの書き換えが可能なRAM領域に加えて、例えば、ディスク制御情報や、システムの鍵情報（コ

ンテンツの暗号鍵など)の束などを記憶するためのROM領域が必要となる場合がある。

【0029】

例えば、システムの鍵情報を用いて、再生装置の機種毎にリボケーション(コンテンツの再生を認証したり、無効にする処理)を行う場合、排除単位として、再生装置の機種を考慮しなければならず、光ディスクに記録されなければならない鍵情報の量は、非常に多くなる。ROM領域には、RAM領域と同等、あるいはそれ以上の、データ記録の信頼性が求められる。また、ディフェクトなどを考慮して、鍵情報を多重書きする必要がある場合も考えられ、このような場合、ROM領域にも、ある程度のデータ記憶容量が必要となる。例えば、数ギガバイト乃至数10ギガバイト以上のRAM領域の記憶容量を有する光ディスクにおいて、数メガバイト乃至数10メガバイト程度のROM領域の記憶容量を確保する必要があると考えられる。

【0030】

RAM領域に記録されるRAMデータと、ROM領域に記録されるROMデータとでは、データの物理的な性質が異なるため、それぞれに最適な記録方式と変調方式は異なるものとなる。しかしながら、RAMデータとROMデータの記録方式、もしくは変調方式が異なる場合、データ再生装置において、複数のデータ処理回路を用意する必要が生じるため、装置の回路構成が複雑になり、規模が大きくなってしまう。

【0031】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、データの読み出しと書き込みの両方が可能なRAM領域と、データの読み出しのみ可能なROM領域を有する光ディスクに、RAM領域とROM領域のいずれにも最適な記録方式および変調方式でデータを記録し、かつ、このような光ディスクを、再生装置の回路構成を複雑にすることなく再生することを可能とするものである。

【0032】

【課題を解決するための手段】

本発明の光ディスクは、読み出しと書き込みの両方が可能な第1の領域と、読

み出しのみ可能な第2の領域とを備え、第1の領域に記録される第1のデータは、第1の記録方式および第1の変調方式で記録され、第1の領域に記録される第2のデータは、第2の記録方式および第2の変調方式で記録され、第2の領域に記録される第3のデータは、第2の記録方式および第2の変調方式で記録されることを特徴とする。

【0033】

第1の領域に記録される第1のデータは、所定のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造を有し、第2の領域に記録される第3のデータは、第1のデータと同一のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造を有するようにすることができる。

【0034】

第1の領域に記録される第1のデータのフレーム長と、第2の領域に記録される第3のデータのフレーム長は、簡単な整数比とされるようにすることができる。

【0035】

第1のデータのaフレーム分の長さに、第3のデータがbフレーム分記録可能である場合、第3のデータのフレーム長は、第1の領域のデータ記録密度cと、第2の領域のデータ記録密度dとの記録密度比率 c/d に対して、 b/a ができるだけ近い値となるように設定されるようにすることができる。

【0036】

第1のデータのaフレーム分の長さに、第3のデータがbフレーム分記録可能である場合、第3のデータのフレーム長は、aができるだけ小さな整数となるように設定されるようにすることができる。

【0037】

第1の領域には、第1のデータをクラスタ単位で記録再生するために必要な第4のデータを記録するための第3の領域を含ませることができ、第2の領域には、第2のデータが記録されるとともに、第2のデータが記録されていない領域には、第3のデータが、その全部に渡って記録されているようにすることができる。

【 0 0 3 8 】

第 1 の領域は、第 1 のデータを複数のセグメントをまたいで記録再生するために必要な第 4 のデータを記録するための第 3 の領域を含ませることができ、第 2 の領域には、第 2 のデータが記録されるとともに、第 2 のデータが記録されていない領域には、第 3 のデータが、その全部に渡って記録されているようにすることができる。

【 0 0 3 9 】

第 1 の変調方法は、R L L (1 , 7) 変調であり、第 2 の変調方法は、R L L (2 , 7) 変調であるものとすることができる。

【 0 0 4 0 】

第 1 の記録方式は、相変化による記録方式であり、第 2 の記録方式は、ビットによる記録方式であるものとすることができる。

【 0 0 4 1 】

第 1 の記録方式は、光磁気記録による記録方式であり、第 2 の記録方式は、ビットによる記録方式であるものとすることができる。

【 0 0 4 2 】

本発明の光ディスク再生装置は、第 1 の領域に記録されている第 1 のデータおよび第 2 の領域に記録されている第 2 のデータを第 1 の復調方法で復調する第 1 の復調手段と、第 1 の復調手段により復調された第 1 のデータに基づいて、第 1 の領域に記録されている第 3 のデータを第 2 の復調方法で復調する第 2 の復調手段とを備えることを特徴とする。

【 0 0 4 3 】

第 2 の復調手段により復調された第 3 のデータ、および、第 1 の復調手段により復調された第 2 のデータの誤り訂正を行う誤り訂正手段を更に備えさせるようにすることができる。

【 0 0 4 4 】

第 1 の復調方法は、R L L (2 , 7) 復調であり、第 2 の復調方法は、R L L (1 , 7) 復調であるものとすることができる。

【 0 0 4 5 】

本発明の光ディスク再生方法は、第1の領域に記録されている第1のデータおよび第2の領域に記録されている第2のデータを第1の復調方法で復調する第1の復調ステップと、第1の復調ステップの処理により復調された第1のデータに基づいて、第1の領域に記録されている第3のデータを第2の復調方法で復調する第2の復調ステップとを含むことを特徴とする。

【 0 0 4 6 】

本発明の第1の記録媒体に記録されているプログラムは、第1の領域に記録されている第1のデータおよび第2の領域に記録されている第2のデータを第1の復調方法で復調する第1の復調ステップと、第1の復調ステップの処理により復調された第1のデータに基づいて、第1の領域に記録されている第3のデータを第2の復調方法で復調する第2の復調ステップとを含むことを特徴とする。

【 0 0 4 7 】

本発明の光ディスク記録装置は、光ディスクの第1の領域に記録するための第1のデータの入力を受ける入力手段と、入力手段により入力された第1のデータを変調する変調手段と、変調手段により変調された第1のデータを光ディスクの第1の領域に記録する記録手段とを備え、第1の領域には、第2のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、第2の領域には、第3のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、変調手段は、第1の変調方式と異なる第2の変調方式で、第1のデータを変調し、記録手段は、第1の記録方式と異なる第2の記録方式で、第1のデータを光ディスクに記録することを特徴とする。

【 0 0 4 8 】

第2の領域には、所定のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造で、第3のデータが予め記録されており、記録手段には、第3のデータと同一のフレーム構造および誤り訂正のためブロック構造で、第1のデータを光ディスクに記録するようにすることができる。

【 0 0 4 9 】

第1の変調方法は、RLL (2, 7) 変調であり、第2の変調方法は、RLL (1, 7) 変調であるものとすることができる。

【0050】

第1の記録方式は、ピットによる記録方式であり、第2の記録方式は、相変化による記録方式であるものとすることができる。

【0051】

第1の記録方式は、ピットによる記録方式であり、第2の記録方式は、光磁気記録による記録方式であるものとすることができる。

【0052】

本発明の光ディスク記録方法は、光ディスクの第1の領域に記録するための第1のデータの入力を受ける入力ステップと、入力ステップの処理により入力された第1のデータを変調する変調ステップと、変調ステップの処理により変調された第1のデータを光ディスクの第1の領域に記録する記録ステップとを含み、第1の領域には、第2のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、第2の領域には、第3のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、変調ステップの処理では、第1の変調方式と異なる第2の変調方式で、第1のデータを変調し、記録ステップの処理では、第1の記録方式と異なる第2の記録方式で、第1のデータを光ディスクに記録することを特徴とする。

【0053】

本発明の第2の記録媒体に記録されているプログラムは、光ディスクの第1の領域に記録するための第1のデータの入力を受ける入力ステップと、入力ステップの処理により入力された第1のデータを変調する変調ステップと、変調ステップの処理により変調された第1のデータを光ディスクの第1の領域に記録する記録ステップとを含み、第1の領域には、第2のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、第2の領域には、第3のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されており、変調ステップの処理では、第1の変調方式と異なる第2の変調方式で、第1のデータを変調し、記録ステップの処理では、第1の記録方式と異なる第2の記録方式で、第1のデータを光ディスクに記録することを特徴とする。

【0054】

本発明の光ディスクにおいては、読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とが備えられ、第 1 の領域に記録される第 1 のデータは、第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で記録され、第 1 の領域に記録される第 2 のデータは、第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録され、第 2 の領域に記録される第 3 のデータは、第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録される。

【 0 0 5 5 】

本発明の光ディスク再生装置、光ディスク再生方法、および第 1 の記録媒体に記録されているプログラムにおいては、第 1 の領域に記録されている第 1 のデータおよび第 2 の領域に記録されている第 2 のデータが第 1 の復調方法で復調され、復調された第 2 のデータに基づいて、第 2 の領域に記録されている第 3 のデータが第 2 の復調方法で復調される。

【 0 0 5 6 】

本発明の光ディスク記録装置、光ディスク記録方法、および第 2 の記録媒体に記録されるプログラムにおいては、光ディスクの第 1 の領域に記録するための第 1 のデータが入力され、入力された第 1 のデータが変調され、変調された第 1 のデータが光ディスクの第 1 の領域に記録され、第 1 の領域には、第 2 のデータが第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録され、第 2 の領域には、第 3 のデータが第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で予め記録され、第 1 の変調方式と異なる第 2 の変調方式で、第 1 のデータが変調され、第 1 の記録方式と異なる第 2 の記録方式で、第 1 のデータが光ディスクに記録される。

【 0 0 5 7 】

【発明の実施の形態】

以下、図を参照して、本発明の実施の形態について説明する。

【 0 0 5 8 】

図 2 を用いて、本発明を適応した光ディスク 3 1 の記憶領域について説明する。ここでは、光ディスク 3 1 は、DVR (Digital Video Recording) の規格に基づくものとして説明する。

【 0 0 5 9 】

光ディスク 31 には、その内周部分の数バンド（例えば 3 バンド）に、エンボス加工によるピット（プリピット）が形成されている ROM 領域 41 が形成され、その外周部に、データの追記、もしくは書き換えが可能な RAM 領域 42 が形成される。RAM 領域 42 には、例えば、音声データや映像データなどのコンテンツデータに対応する RAM データが記録される。RAM 領域 42 の RAM データは、PC（phase change（相変化））により記録される。

【0060】

なお、RAM 領域 42 においては、ランド（光ディスク 31 の溝と溝の間の凸部分）、およびグループ（光ディスク 31 の溝部分）に、トラックが構成される（ピットが存在する）。しかしながら、ROM 領域 41 においては、RAM 領域 42 のグループに対応する部分のみ、トラックが構成される。すなわち、RAM 領域 42 と ROM 領域 41 との 1 バンドの幅（光ディスク 31 の半径方向の長さ）は同一であるが、例えば、RAM 領域 42 において、1 バンドが 708 トラックである場合、ROM 領域 41 において、1 バンドは 354 トラックである。

【0061】

光ディスク 31 の ROM 領域 41 と RAM 領域 42 には、共通に、スポーク状（放射状）に、プリピットヘッダエリア 43 が配置されている。2 つの隣接するプリピットヘッダエリア 43 の間の区間はセグメントと称される。図 2 の例においては、1 周が 8 セグメントに分割されている。換言すれば、セグメントとは、プリピットヘッダエリア 43 が存在するデータの単位であるといえる。

【0062】

RAM 領域 42 における、セグメントのレイアウトを図 3 に示す。セグメントは、プリピットヘッダエリア 43、セグメントランインエリア 51、データフレームエリア 52、およびセグメントランアウトエリア 53 から構成される。

【0063】

プリピットヘッダエリア 43 は、図 4 に示されるように、82 チャンネルピットのミラーマーク 61、ランドに形成されるランドヘッダ 62、ランドヘッダ 62 とグループヘッダ 64 との間に設けられる 6 チャンネルピットの GAP 領域 63、グループに形成されるグループヘッダ 64、および、グループヘッダ 64 とセグ

メントランインエリア51との間に設けられる6チャンネルビットのGAP領域65から構成されている。ランドヘッダ62、およびグループヘッダ64は、それぞれ1080チャンネルビットとされ、同じデータ構造を有している（その詳細は、図6を参照して後述する）。

【0064】

セグメントランインエリア51は、RAMデータを複数のプリビットヘッダエリア43にわたって記録・再生する場合に必要なAPC（automatic power control（自動出力制御））動作に関する情報を記録するAPC動作領域、PLL（Phase Locked Loop）引き込み用のVFO（Variable Frequency Oscillator）パターン、同期引き込み用のシンクパターン、およびプリビットヘッダエリア43とのGAP領域で構成されている。セグメントランアウトエリア53は、ポストアンブルパターンおよびGAP領域などから構成されている。

【0065】

データフレームエリア52には、図8を用いて後述するフォーマットで、複数のRAMデータフレームが記録される。データフレームエリア52に記録されるRAMデータフレーム数は、同じゾーン内では同一であるが、1つ外周側のゾーンにおいては、1つ増加する。

【0066】

RAM領域42において、データは、クラスタ単位で記録される。図5に示すように、複数のセグメントをまたいで記録されるクラスタの先頭には、データランインエリア71が、クラスタの最後には、データランアウトエリア72が形成される。データランインエリア71は、APC動作に関する情報を記録するAPC動作領域、PLL引き込み用のVFOパターン、同期引き込み用のシンクパターン、および隣接するクラスタとのGAP領域で構成されている。データランアウトエリア72は、ポストアンブルパターンおよびGAP領域などから構成されている。

【0067】

図4を用いて説明したプリビットヘッダエリア43のランドヘッダ62、およびグループヘッダ64のデータ構成を図6に示す。

【0068】

SM (Sector Mark) は、60チャンネルビットのデータであり、ランドヘッダ62 (または、グループヘッダ64) の先頭部分に記録されている。その次のVFO1には、クロック発振を制御するためのデータが記述されており、414チャンネルビットのデータである。更に、その次のPrA (Pre-amble) 1 (PrA2も同様) は、30チャンネルビットのデータであり、続くAM (Address Mark) 1 (AM2も同様) は、21チャンネルビットのデータである。

【0069】

ID (Identification Data) 1 (ID2も同様) は、光ディスク31上のアドレスを示す102チャンネルビットのデータ (プリビットアドレス) である。次のPoA (Post-amble) 1 (PoA2も同様) は、6チャンネルビットのデータである。次のVFO2/DI (Disc Information) は、288チャンネルビットのデータであり、データゾーンにおいては、VFOが、リードインゾーン、およびリードアウトゾーンにおいては、DIが記述される。すなわち、RAM領域42においては、この部分には、全てVFOが (VFO2として) 記述される。その次には、PrA2, AM2, ID2, PoA2が順次配置される。

【0070】

SM, VFO, PrA, AMおよびPoAは、光ディスク31に記録される前に、NRZI (Non Return to Zero Inverted (非ゼロ復帰逆転)) チャンネルビットストリームに変換される。また、図6を用いて説明したVFO2/DIのデータが、VFOではなくDIである場合、15バイトのデータが、5つの3バイトのデータに分割されて、それぞれRL (2, 7) 変調され、それぞれの48ビットのデータの間に、6チャンネルビットのd c cが挿入され、288チャンネルビットのDIとなる。

【0071】

図7を用いて、プリビットアドレス (すなわち、図6のID1、ID2) のフォーマットについて説明する。

【0072】

プリビットアドレスの変調方式には、RL (2, 7) が用いられる。プリビ

ットアドレスは、6バイトのデータ (information byte0乃至information byte5) を含んでいる。プリビットアドレスのデータ3バイト、すなわち24ビットは、RL L (2, 7) 変調により、48チャンネルビットに変換され、変換された2つの48チャンネルビットのデータの間に、6チャンネルビットのdc-control (d c c) が挿入されて、102チャンネルビットのID1 (もしくはID2) となる。d c cとは、データの直流成分をコントロールする、すなわち、データが0か1かによって直流成分が偏ることを防ぐために挿入されるものである。

【0073】

図8を用いて、図3のデータフレームエリア52に記録されるRAMデータのフォーマットについて説明する。

【0074】

2048バイト×32セクタのユーザデータが、リードソロモン符号化されて、216行×304列のデータブロックが構成され、32行のパリティが付加されて、LDC (Long Distance Code) サブ・ブロックが構成される。LDCは、符号間距離が大きい訂正符号である。LDCサブ・ブロックは、RS (Reed Solomon Codes) (248, 216, 33) ×304のブロックである。そして、LDCサブ・ブロックから、LDCクラスタ (496行×152列) が構成される。

【0075】

18バイト×32ユニットのユーザコントロールデータ (制御情報)、および、9バイト×16アドレスの物理アドレスが、リードソロモン符号化されて、30行×24列のアクセスブロックが構成され、これに32行のパリティが付加されて、BIS (burst indicating subcode) サブ・ブロックが構成される。BISは、光ディスク31のバーストエラーの位置を示すためのサブコードである。BISサブ・ブロックは、RS (62, 30, 33) ×24のブロックである。そして、BISサブ・ブロックから、BISクラスタ (496行×3列) が構成される。

【0076】

記録再生単位であるLDCクラスタおよびBISクラスタは、それぞれ496

のデータフレームから構成される。そして、38バイトのLDCと1バイトのBISが交互に配置される155バイトのデータフレームが構成され、先頭の1グループは25ビット、残り27グループは45ビットとなるように分割され、それぞれのグループの後に、1ビットのd c cが挿入され、先頭に20ビットのフレームシンク (frame sync) が挿入されて、1288ビット (RLL (1, 7) 変調により、1932チャンネルビットに変換される) のRAM記録フレームが生成され、図3を用いて説明したデータフレームエリア52に記録される。

【0077】

次に、ROM領域41のデータの記録方式、変調方式、フレーム構造、およびECC (Error Correcting Code (誤り訂正符号)) ブロック構造 (すなわち、LDCおよびBISを構成するデータの配置) について説明する。

【0078】

図3乃至図8を用いて説明したRAM領域42のデータに対して、ROM領域41のデータは、その記録方式、および変調方式がRAM領域42のプリビットアドレスと同様とされるとともに、ECCブロック構造も、RAMデータと同様とされる。すなわち、ROM領域41は、ビット形成によりデータが記録され、LDCを構成するデータとBISを構成するデータは、図8を用いて説明した、RLL (1, 7) 変調が施される前のデータ配置とほぼ同様となるように構成され、そのデータは、RLL (2, 7) 変調により変調される。

【0079】

一般には、RLL (2, 7) 変調における変換率 (データビット/チャンネルビット) は、 $1/2$ である。また、RLL (1, 7) 変調における変換率 (データビット/チャンネルビット) は、 $2/3$ である。すなわち、RLL (1, 7) 変調を用いるRAM領域42におけるデータ密度を $n1$ 、RLL (2, 7) 変調を用いるROM領域41におけるデータ密度を $m1$ とすると、 $n1/m1 = (3/2) / (2/1) = 3/4$ となる。しかしながら、実際には、d c cやシンクパターンの種類、その他の要因のために、フレームの密度比 (1フレーム中のチャンネルビットの数の比、すなわち、フレーム長の逆数) が、ちょうどこの値 ($3/4$) になることは、ほとんどありえない。また、実際に、d c cや、シンクパター

ンを付加した後の密度比が、簡単な整数比になることも、ほとんどありえない。

【0080】

図9を用いて、RAM記録フレームとROM記録フレームについて説明する。

【0081】

図2を用いて説明したように、光ディスク31では、放射状に、プリピットヘッドエリア43が配置され、セグメントに分割され、図3を用いて説明したように、RAM領域42においては、データフレームエリア52に記録されるRAMデータフレーム数は、データフレームエリア52の位置するゾーンが光ディスク31の1つだけ外周になると1つ増加する。ROM領域41においても、セグメント構造およびゾーンの扱いを、RAM領域42と同様にすると、処理が共通化されるので好ましい。

【0082】

RAM領域42と、ROM領域41のフレームの密度比が簡単な整数比にならないと、ROM領域41に記録されているデータの再生のためのタイミング管理などが、RAM領域42に記録されているデータの再生における場合と異なってしまう。そのため、再生装置において、例えば、信号処理回路を複数設けたり、複雑な処理を行うことなどが必要になってしまう。従って、RAM領域42とROM領域41の、それぞれに記録されているデータの再生時、その再生方法を、RAM領域42に記録されているRAMデータの再生方法と同一にすることができるよう、ROMデータフレーム内に、わずかなダミーデータを付加したり、チャンネルビットを調整することにより、RAM領域42と、ROM領域41のフレームの密度比が簡単な整数比となるように調整が行われる。

【0083】

具体的には、RAMデータの m_2 フレーム分の長さが、ROMデータの n_2 フレーム分の長さとなるように調整された場合、すなわち、RAM領域42と、ROM領域41のフレームの密度比が n_2/m_2 である場合、 n_2/m_2 は、RAM領域42とROM領域41のデータ密度比 n_1/m_1 （本実施の形態では、 $n_1/m_1 = 3/4$ ）と近い数値になるように調整される。

【0084】

図9の例では、RAM領域42のRAMデータフレーム長が1932チャンネルビットであるのに対して、ROM領域41のROMデータフレーム長は2898チャンネルビットとされる。すなわち、RAMデータの3フレーム分の長さが、ROMデータの2フレーム分の長さとなる。

【0085】

ROMデータは、上述したように、RAMデータのプリビットアドレスと同様に、RLL(2, 7)変調により変調されるので、データ3バイト(24ビット)が、48チャンネルビットに変換され、その単位毎に、6チャンネルビットのd c cが挿入される。ROM記録フレームの先頭には、48チャンネルビットのフレームシンク(FS)が付加され、ROM記録フレームの最後には、フレーム長を調整するためにポストアンブル(PO)が付加される(ここでは、48チャンネルビット付加される)。フレームシンクおよびポストアンブルは、d cフリーとなるようにする。

【0086】

ROM記録フレームの1フレーム中には、156バイト分のデータを記録することができるが、ここに、155バイトのデータと、次の155バイトのデータのうちの1バイトを配置するのではなく、155バイトのデータと、1バイトのダミーデータを配置することで、実質的には、RAMデータフレームに合わせて、155バイトのデータを記録するものとする。このように、ROMデータフレームの構成をRAMデータフレームに合わせることにより、ECCフォーマットより上位(すなわち、アプリケーション側)におけるデータの構成を、RAMデータと同様にすることができるので、ROMデータとRAMデータのデータ処理を、同様のものとすることができる。

【0087】

図10を用いて、光ディスク31のゾーンナンバと、それぞれのセグメントに記録されるデータフレーム数について説明する。

【0088】

例えば、RAM領域42のゾーン0(テスト領域を除いた、RAMデータを記録するゾーンの最内周部分)には、図3を用いて説明した、プリビットヘッダエ

リア43、セグメントランインエリア51、データフレームエリア52およびセグメントランアウトエリア53に、データフレームが合計113フレーム記録可能であるが、そのうち、データフレームエリア52に記録されるRAMデータフレームが110フレームであるものとする。光ディスク31の内周側から3ゾーンをROM領域41としているので、本来のRAMデータを、このROM領域41に記録する場合には、ゾーン-8にデータフレームを102フレーム、ゾーン-7にデータフレームを103フレーム、ゾーン-6にデータフレームを104フレーム記録することが可能である。

【0089】

しかしながら、図9を用いて説明したように、ROMデータフレームは、RAMデータフレームの3フレーム分に対して、2フレーム分記録できるようになされている。そのため、データフレームエリア52に記録することができるRAMデータフレーム数が3の倍数に対応しないゾーンにおいては、データフレームエリア52に記録することができるRAMデータフレーム数が3の倍数に対応するゾーンに合わせたセグメント構造とする必要がある。従って、ROM領域41においては、この3つのゾーンをゾーン-6として、それぞれROMデータフレームを68フレーム記録するようにする（すなわち、ゾーン-7では、RAMデータフレームで1フレーム分、ゾーン-6では、RAMデータフレームで2フレーム分のデータ領域を余らせる）。そして、ゾーン-6を1つのゾーンと考えて、CAV方式で読み書きを行う。

【0090】

ここで、図9を用いて説明した $m2$ の値が、3ではなく、別の数値である場合について考える。

【0091】

例えば、 $m2=5$ である場合、ROM領域41のセグメント構造は、データフレームエリア52に記録することができるRAMデータフレーム数が5の倍数に対応するゾーンに合わせたセグメント構造とする必要がある。そのため、RAMデータを記録するものとして考えた場合、1セグメントに記録することができるデータフレームの数が100となるようなセグメント構造としなければならない

ため、ゾーン-8では、RAMデータ2フレーム分、ゾーン-7では、RAMデータフレームで3フレーム分、ゾーン-6では、RAMデータフレームで4フレーム分のデータ領域を余らせることになってしまう。同様に、例えば、 $m_2 = 8$ である場合、1セグメントに記録することができるデータフレームの数が96となるようなセグメント構造としなければならないため、ゾーン-8では、RAMデータ6フレーム分、ゾーン-7では、RAMデータフレームで7フレーム分、ゾーン-6では、RAMデータフレームで8フレーム分のデータ領域を余らせることになってしまう。

【0092】

すなわち、ROMデータフレームを構成するにあたって、 m_2 の値をできるだけ小さい整数とするほうが、記録密度を向上することができるので好ましい。

【0093】

また、図3を用いて説明したように、RAM領域42のセグメントは、プリビットヘッダエリア43、データフレームエリア52以外に、セグメント間のリンクングのために、セグメントランインエリア51、およびセグメントランアウトエリア53から構成される。しかしながら、RAM領域42とは異なり、ROM領域41においては、データを新たに記録しない。

【0094】

従って、データを複数のプリビットヘッダエリア43にわたって記録・再生する場合に必要なAPC動作領域、およびプリビットアドレスとのGAP領域は、ROM領域41においては必要ではない。また、ビット列が連続するため、PLL引き込み用のVFOパターンも必要ではなく、更に、ROM領域41における同期タイミングが分かっているならば、同期引き込み用のシンクパターンも不要である。すなわち、ROM領域41において、セグメントランインエリア51は省略可能である。そして、ビット列が連続するため、ポストアンプルパターンも不要であることから、ROM領域41において、セグメントランアウトエリア53も省略可能である。

【0095】

更に、図5を用いて説明した、RAM領域42において必要であったクラスタ

の先頭のデータランインエリア71、および、クラスタの最後のデータランアウトエリア72も、同様の理由により省略可能である。

【0096】

セグメントランインエリア51、セグメントランアウトエリア53、データランインエリア71、および、データランアウトエリア72を省略することにより、ROM領域41に記録されるROMデータの記録効率を向上させることができる。

【0097】

図11は、本発明を適応した記録再生装置81の構成を示すブロック図である。なお、図1の場合と対応する部分には同一の符号を付している。

【0098】

すなわち、記録再生装置81は、図1のID部21に代わって、ID部91が設けられ、ID部91を制御するコントローラ92、およびコントローラ92と接続されたドライブ93が新たに設けられている以外は、図1の記録再生装置1と同様の構成を有している。

【0099】

I/F (Inter face) 部11は、アプリケーション・ブロック (図示せず) から入力されたデータを、調停部12に供給したり、調停部12から供給されたデータを、アプリケーション・ブロックに出力する。調停部12は、I/F部11、ECC (Error Check and Correct) 部14、および変復調部15と、バッファメモリ (buffer memory) 13との調停、すなわちデータの授受の制御を行う。

【0100】

バッファメモリ13は、処理を高速化するために、光ディスク31から読み出されたか、もしくは光ディスク31に記録するためのデータ (すなわち、調停部12を介して、変復調部15と授受されるデータ) と、誤り訂正符号およびアプリケーション上のデータ (すなわち、調停部12を介して、ECC部14もしくはI/F部11と授受されるデータ) を交互配置する (すなわち、インターリーブする) ために利用される。ECC部14は、データの再生時には、調停部12

から入力されたデータに誤り訂正処理 (decode) を行い、データの記録時には、調停部 1 2 から入力されたデータを誤り訂正符号化 (encode) する。

【 0 1 0 1 】

変復調部 1 5 は、RAM 領域 4 2 に記録されているデータの再生時には、信号検出部 2 0 から入力されたデータを、タイミングジェネレータ 2 2 から入力されるタイミング信号に基づいて、RLL (Run Length Limited Code) (1, 7) 復調方式で復調するなどの所定の処理を実行し、調停部 1 2 に出力する。また、変復調部 1 5 は、RAM 領域 4 2 にデータを記録する場合には、調停部 1 2 から入力されたデータを、RLL (1, 7) 変調方式で変調し、例えば、シンクビットの挿入などの所定の処理を施して、レーザドライバ 1 6 に出力する。

【 0 1 0 2 】

レーザドライバ 1 6 は、RAM 領域 4 2 にデータを記録させる場合、変復調部 1 5 から入力されたデータに従って、光学ヘッド 1 7 の図示しないレーザダイオードをドライブし、光ディスク 3 1 にレーザ光を照射させ、データを書き込ませる。レーザドライバ 1 6 は、光ディスク 3 1 に記録されているデータを読み込む場合、光学ヘッド 1 7 のレーザダイオードをドライブし、光ディスク 3 1 にレーザ光を照射させる。

【 0 1 0 3 】

レーザダイオードから照射されたレーザ光は、光ディスク 3 1 の記録面に形成されたトラックに照射されて反射し、光学ヘッド 1 7 内の、図示しないフォトディテクタ (光検出器) によって受光される。トラック上のピットのない平坦な部分では、レーザ光がそのまま反射されるため、反射光の光密度が大きい。ピットがある部分では、反射光が拡散され、光密度が小さくなる。フォトディテクタは、この光密度の変化を検出し、これを電気信号に変えて、信号検出部 2 0 に出力する。

【 0 1 0 4 】

スピンドルモータ 1 8 は、図示しないドライバによって駆動され、光ディスク 3 1 を回転させる。

【 0 1 0 5 】

信号検出部 20 は、RAM 領域 42 に記録されているデータを再生する場合、光学ヘッド 17 から供給された電気信号から、光ディスク 31 に記録されている信号を検出し、変復調部 15 に供給するとともに、ID 部 91 に供給する。また、信号検出部 20 は、ROM 領域 41 に記録されているデータを再生する場合、検出した信号を ID 部 91 に供給する。

【0106】

ID 部 91 は、供給されたデータが RAM データである場合、RLL (2, 7) 復調を行って、供給されたデータに含まれる、プリピットアドレス (ID 情報) を再生して、タイミングジェネレータ 22 に出力する。また、ID 部 91 は、供給されたデータが ROM データである場合、RLL (2, 7) 復調を行って、復調されたデータを、調停部 12 に出力する。

【0107】

コントローラ 92 は、光ディスク 31 の ROM 領域 41 に記録されている ROM データを再生させる場合、ID 部 91 において、RAM 領域 42 の ID データと同様に、RLL (2, 7) 復調により復調された ROM データを、タイミングジェネレータ 22 に出力せずに、調停部 12 に出力させるための制御信号を生成して、ID 部 91 に出力する。ID 部 91 は、コントローラ 92 から入力される制御信号に従って、復調した ROM データを調停部 12 に出力する。

【0108】

また、コントローラ 92 には、ドライブ 93 も接続されている。ドライブ 93 には、必要に応じて磁気ディスク 101、光ディスク 102、光磁気ディスク 103、および半導体メモリ 104 が装着され、データの授受が行われる。

【0109】

タイミングジェネレータ 22 は、ID 部 91 で再生された ID 情報を基に、変復調部 15 で実行される RAM データの復調のためのタイミング信号を生成し、変復調部 15 に出力する。

【0110】

アプリケーションから入力されたデータを光ディスク 31 の RAM 領域 42 に記録させる場合、I/F 部 11 は、入力されたデータを、調停部 12 を介して、

バッファメモリ 1 3 に供給する。このデータは、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 から読み出されて、ECC 部 1 4 に供給され、誤り訂正符号化され、再び、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 に蓄積される。

【 0 1 1 1 】

そして、バッファメモリ 1 3 に蓄積された、誤り訂正符号化されたデータは、所定のタイミングで、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 から読み出されて、変復調部 1 5 に供給され、RLL (1 , 7) 変調などの所定の処理が施され、レーザドライバ 1 6 に出力される。レーザドライバ 1 6 は、光学ヘッド 1 7 の図示しないレーザダイオードをドライブし、光ディスク 3 1 にレーザ光を照射させ、データを書き込ませる。

【 0 1 1 2 】

光ディスク 3 1 の RAM 領域 4 2 に記録されている RAM データの再生時には、光学ヘッド 1 7 で電気信号に変換されたデータが、信号検出部 2 0 で読み取られ、変復調部 1 5 に供給される。信号検出部 2 0 は、ID 部 9 1 にも読み取った信号を供給する。ID 部 9 1 において、RLL (2 , 7) 復調により、ID 情報が復調され、データの位置情報が再生されて、タイミングジェネレータ 2 2 に出力される。データの位置情報の入力を受けたタイミングジェネレータ 2 2 は、復調処理のためのタイミング信号を生成し、変復調部 1 5 に供給する。変復調部 1 5 は、タイミングジェネレータ 2 2 から供給されたタイミング信号に基づいて、入力された RAM データを RLL (1 , 7) 復調する。復調された RAM データは、調停部 1 2 を介して、バッファメモリ 1 3 に供給され、蓄積される。

【 0 1 1 3 】

バッファメモリ 1 3 に蓄積された、復調後の RAM データは、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 から読み出されて、ECC 部 1 4 に供給されて、誤り訂正がなされ、再び、調停部 1 2 の処理により、バッファメモリ 1 3 に蓄積される。誤り訂正されたデータは、調停部 1 2 の処理により、所定のタイミングで読み出され、I/F 部 1 1 を介して、アプリケーションに出力され、例えば、図示しないモニタもしくはスピーカに出力され、再生される。

【 0 1 1 4 】

そして、光ディスク31のROM領域41に記録されているROMデータの再生時には、光学ヘッド17で電気信号に変換されたデータが、信号検出部20で読み取られ、ID部91に供給される。ID部91において、RLL(2,7)復調により、復調されたROMデータは、調停部12に出力され、調停部12の処理により、バッファメモリ13に蓄積される。

【0115】

バッファメモリ13に蓄積されたデータは、調停部12の処理によりECC部14に出力され、ECC部14において誤り訂正がなされる。誤り訂正がなされたROMデータは、再び、バッファメモリ13に蓄積され、調停部12の処理により、再び読み出されて、I/F部11を介して、アプリケーションに供給される。アプリケーションは、供給されたROMデータに基づいて、例えば、光ディスク31に記録されているコンテンツのリボケーション処理などを行う。

【0116】

ここで、ECC部14およびI/F部11が扱うデータ方向と、変復調部15が扱うデータ方向とは、バーストエラーに対する訂正能力を確保するため、バッファメモリ13において、異なる方向になるように蓄積される。すなわち、これらのデータは、インターリーブされている。

【0117】

なお、ここでは、光ディスク31をDVRの規格に基づくものとして説明したが、本発明は、例えば、CDもしくはDVDなどの他の光ディスク、あるいは、MDなどの光磁気ディスクにも適応可能である。また、ROM領域41に記録されるROMデータ、およびRAM領域42のプリビットアドレスは、ピット形成によりデータが記録され、RAM領域42に記録されるRAMデータは、相変化によりデータが記録されるものとして説明したが、例えば、光ディスク31がMOなどの光磁気ディスクである場合、ROM領域41に記録されるROMデータ、およびRAM領域42のプリビットアドレスは、ピット形成によりデータが記録され、RAM領域42に記録されるRAMデータは、光磁気記録によりデータが記録される。

【0118】

上述した一連の処理は、ソフトウェアにより実行することもできる。そのソフトウェアは、そのソフトウェアを構成するプログラムが、専用のハードウェアに組み込まれているコンピュータ、または、各種のプログラムをインストールすることで、各種の機能を実行することが可能な、例えば汎用のパーソナルコンピュータなどに、記録媒体からインストールされる。

【 0 1 1 9 】

この記録媒体は、図 1 1 に示すように、コンピュータとは別に、ユーザにプログラムを提供するために配布される、プログラムが記録されている磁気ディスク 1 0 1 (フロッピーディスクを含む)、光ディスク 1 0 2 (CD-ROM (Compact Disk-Read Only Memory), DVD (Digital Versatile Disk)を含む)、光磁気ディスク 1 0 3 (MD (Mini-Disk)を含む)、もしくは半導体メモリ 1 0 4 などよりなるパッケージメディアなどにより構成される。

【 0 1 2 0 】

また、本明細書において、記録媒体に記録されるプログラムを記述するステップは、記載された順序に沿って時系列的に行われる処理はもちろん、必ずしも時系列的に処理されなくとも、並列的あるいは個別に実行される処理をも含むものである。

【 0 1 2 1 】

【発明の効果】

本発明の光ディスクによれば、読み出しと書き込みの両方が可能な第 1 の領域と、読み出しのみ可能な第 2 の領域とを備え、第 1 の領域に記録される第 1 のデータは、第 1 の記録方式および第 1 の変調方式で記録されるとともに、所定のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造を有し、第 1 の領域に記録される第 2 のデータは、第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録され、第 2 の領域に記録される第 3 のデータは、第 2 の記録方式および第 2 の変調方式で記録され、かつ、第 1 のデータと同一のフレーム構造および誤り訂正のためのブロック構造を有するようにしたので、データの読み出しと書き込みの両方が可能な RAM 領域と、データの読み出しのみ可能な ROM 領域を有する光ディスクに、RAM 領域と ROM 領域のいずれにも最適な記録方式および変調方式でデータを記録

することができる。

【0122】

本発明の光ディスク再生装置、光ディスク再生方法、および第1の記録媒体に記録されているプログラムによれば、第1の領域に記録されている第1のデータおよび第2の領域に記録されている第2のデータを第1の復調方法で復調し、復調された第2のデータに基づいて、第2の領域に記録されている第3のデータを第2の復調方法で復調し、復調された第3のデータ、および、復調された第2のデータの誤り訂正を行うようにしたので、データの読み出しと書き込みの両方が可能なRAM領域と、データの読み出しのみ可能なROM領域を有し、RAM領域とROM領域のいずれにも最適な記録方式および変調方式でデータを記録している光ディスクに記録されたデータを、再生装置の回路構成を複雑にすることなく再生することを可能とする。

【0123】

本発明の光ディスク記録装置、光ディスク記録方法、および第2の記録媒体に記録されるプログラムによれば、光ディスクの第1の領域に記録するための第1のデータの入力を受け、入力された第1のデータを変調し、変調された第1のデータを光ディスクの第1の領域に記録し、第1の領域には、第2のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されているようにし、第2の領域には、第3のデータが第1の記録方式および第1の変調方式で予め記録されているようにし、第1の変調方式と異なる第2の変調方式で、第1のデータを変調し、第1の記録方式と異なる第2の記録方式で、第1のデータを光ディスクに記録するようにしたので、データの読み出しと書き込みの両方が可能なRAM領域と、データの読み出しのみ可能なROM領域を有する光ディスクのRAM領域に、記録装置の回路構成を複雑にすることなく、最適な記録方式および変調方式でデータを記録することを可能とする。

【図面の簡単な説明】

【図1】

従来の光ディスクの記録再生装置の構成を示すブロック図である。

【図2】

本発明を適応した光ディスクについて説明するための図である。

【図 3】

図 2 の光ディスクのセグメント構造について説明するための図である。

【図 4】

図 3 のプリピットヘッダエリアの構成を説明するための図である。

【図 5】

クラスタの記録について説明するための図である。

【図 6】

図 5 のランドヘッダおよびグループヘッダのデータ構成について説明するための図である。

【図 7】

RAM 領域のプリピットアドレスのフォーマットについて説明するための図である。

【図 8】

RAM 領域の RAM データのフォーマットについて説明するための図である。

【図 9】

RAM 記録フレームおよび ROM 記録フレームについて説明するための図である。

【図 1 0】

ROM 領域および RAM 領域のゾーンナンバとそれに対応するデータフレームの記録数について説明するための図である。

【図 1 1】

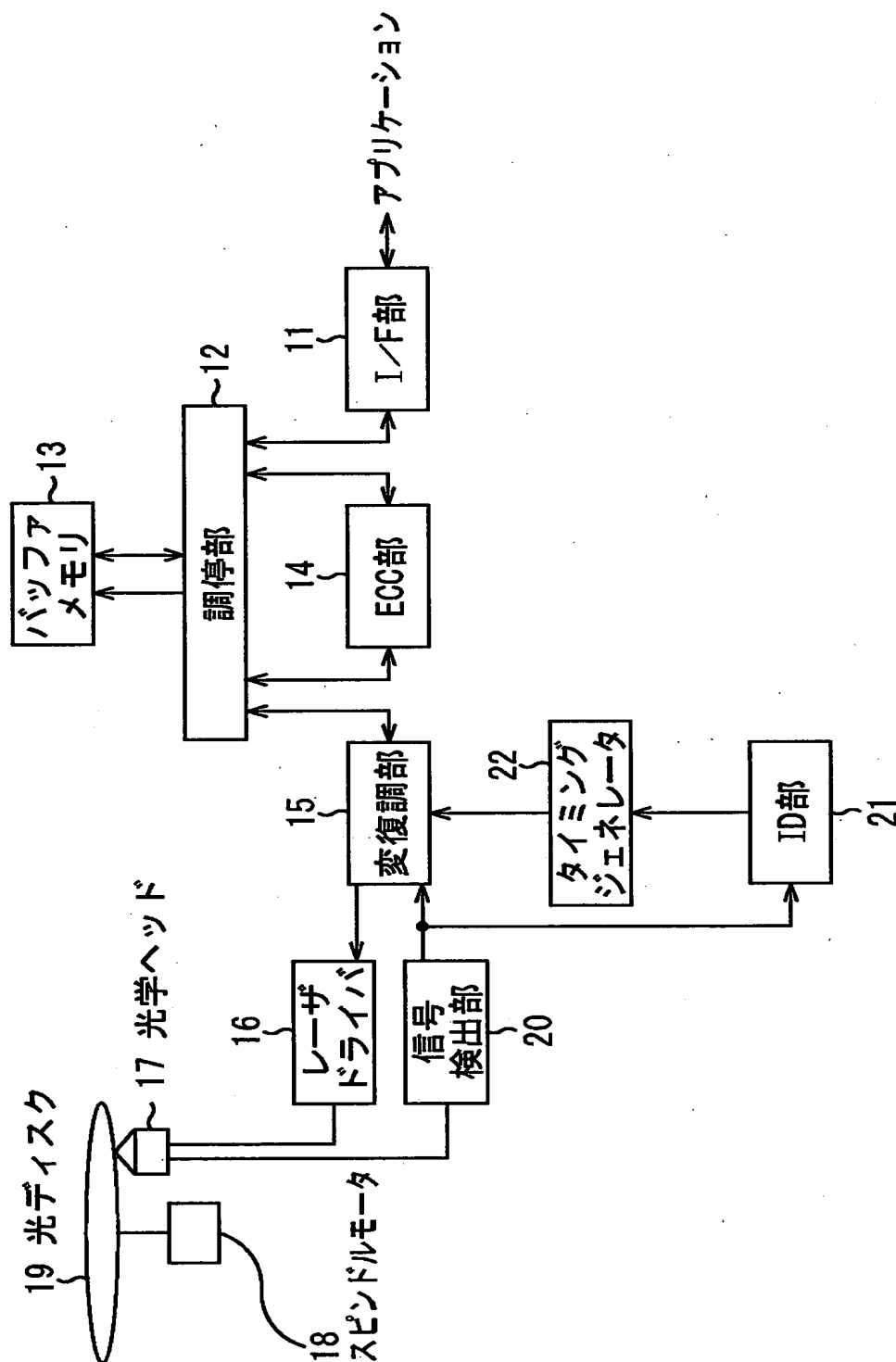
本発明を適応した記録再生装置について説明するための図である。

【符号の説明】

1 4 ECC 部, 1 5 変復調部, 2 2 タイミングジェネレータ, 3 1
光ディスク, 4 1 ROM 領域, 4 2 RAM 領域, 4 3 プリピット
ヘッダエリア, 9 1 ID 部, 9 2 コントローラ

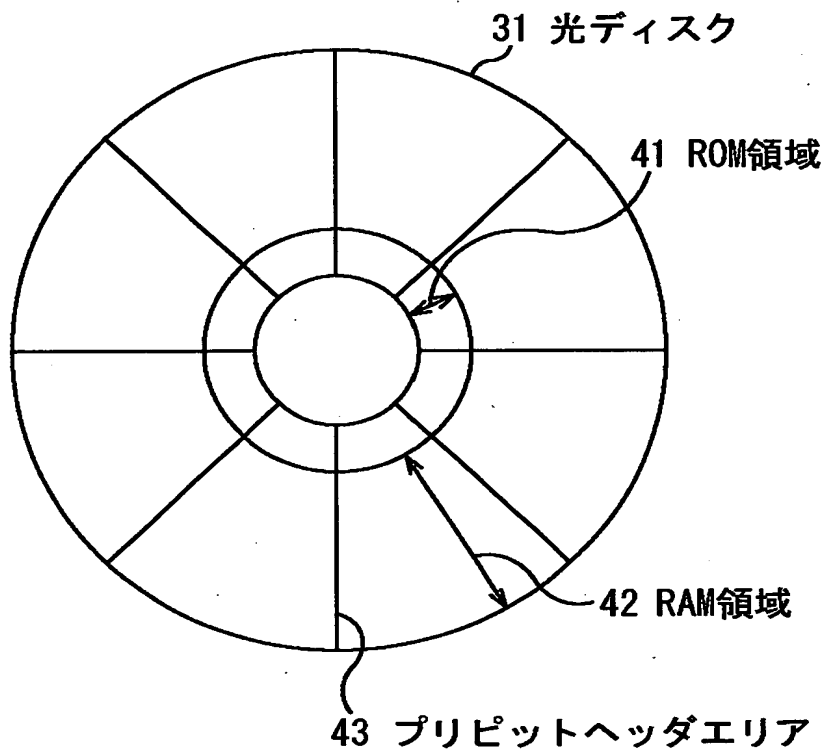
【書類名】 図面

【図 1】

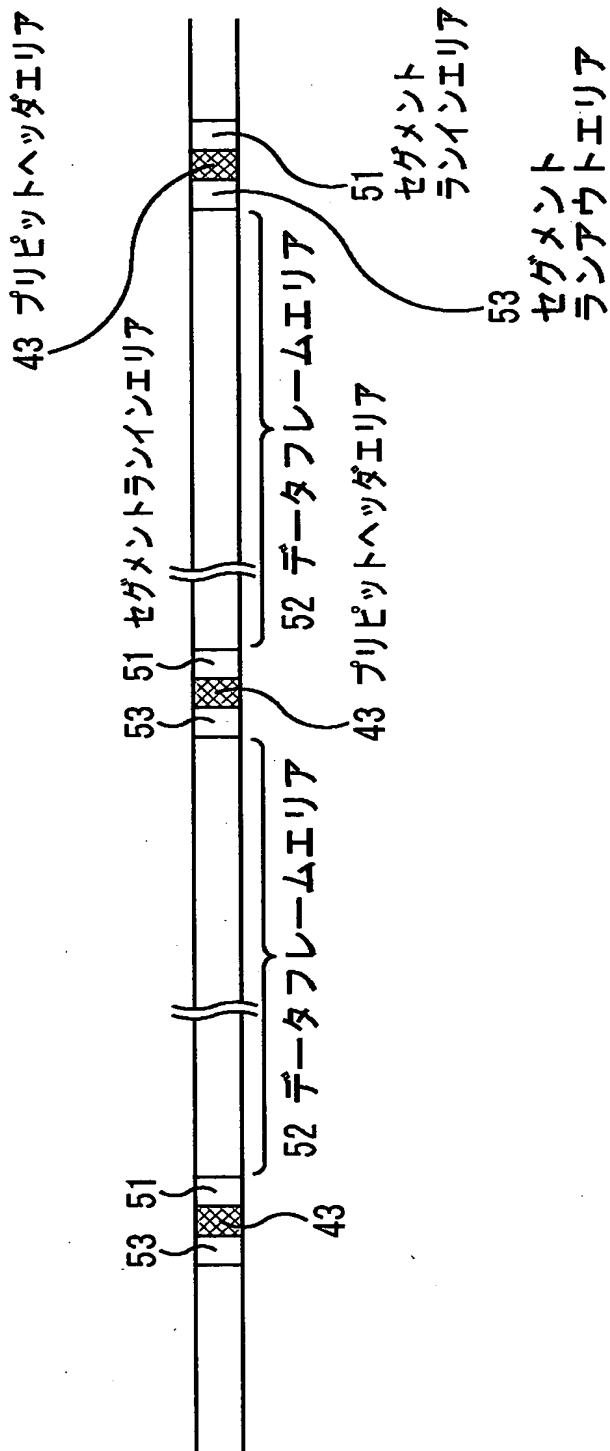


記録再生装置 1

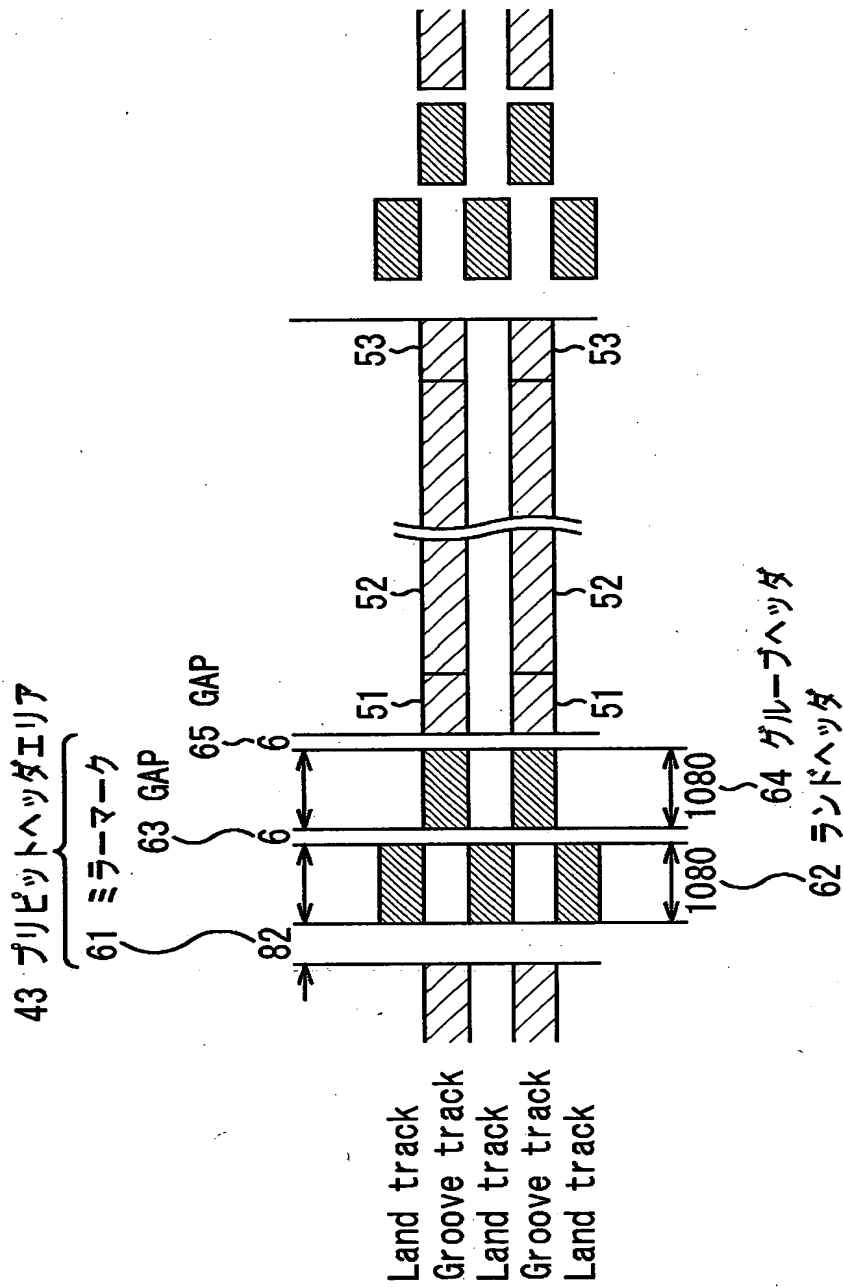
【図2】



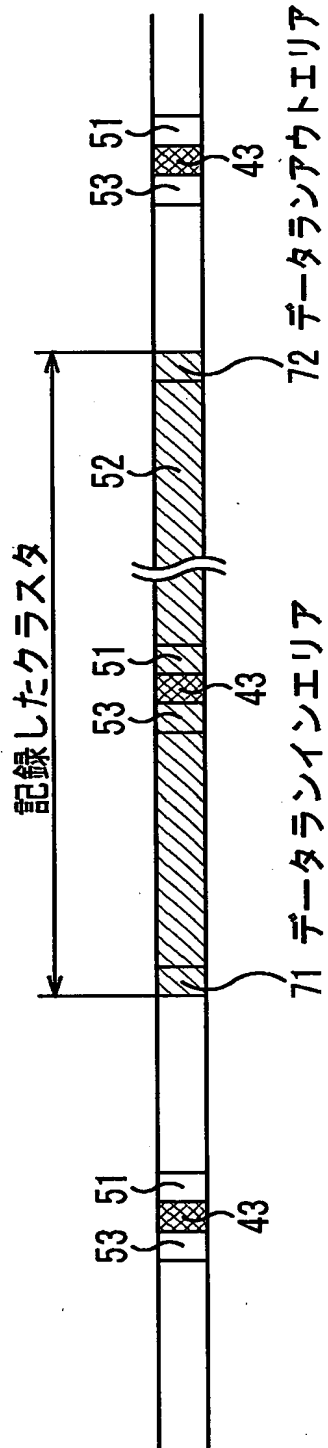
【図 3】



【図4】



【図 5】

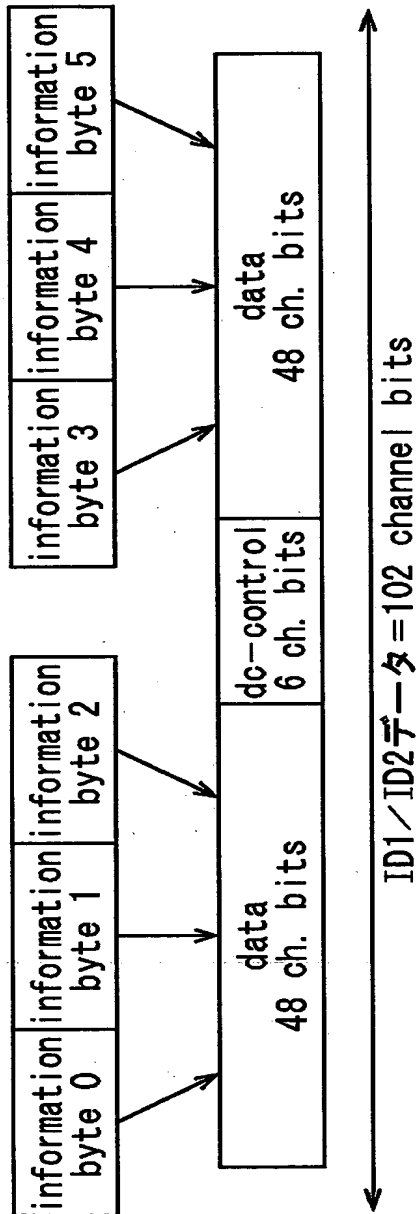


【図 6】

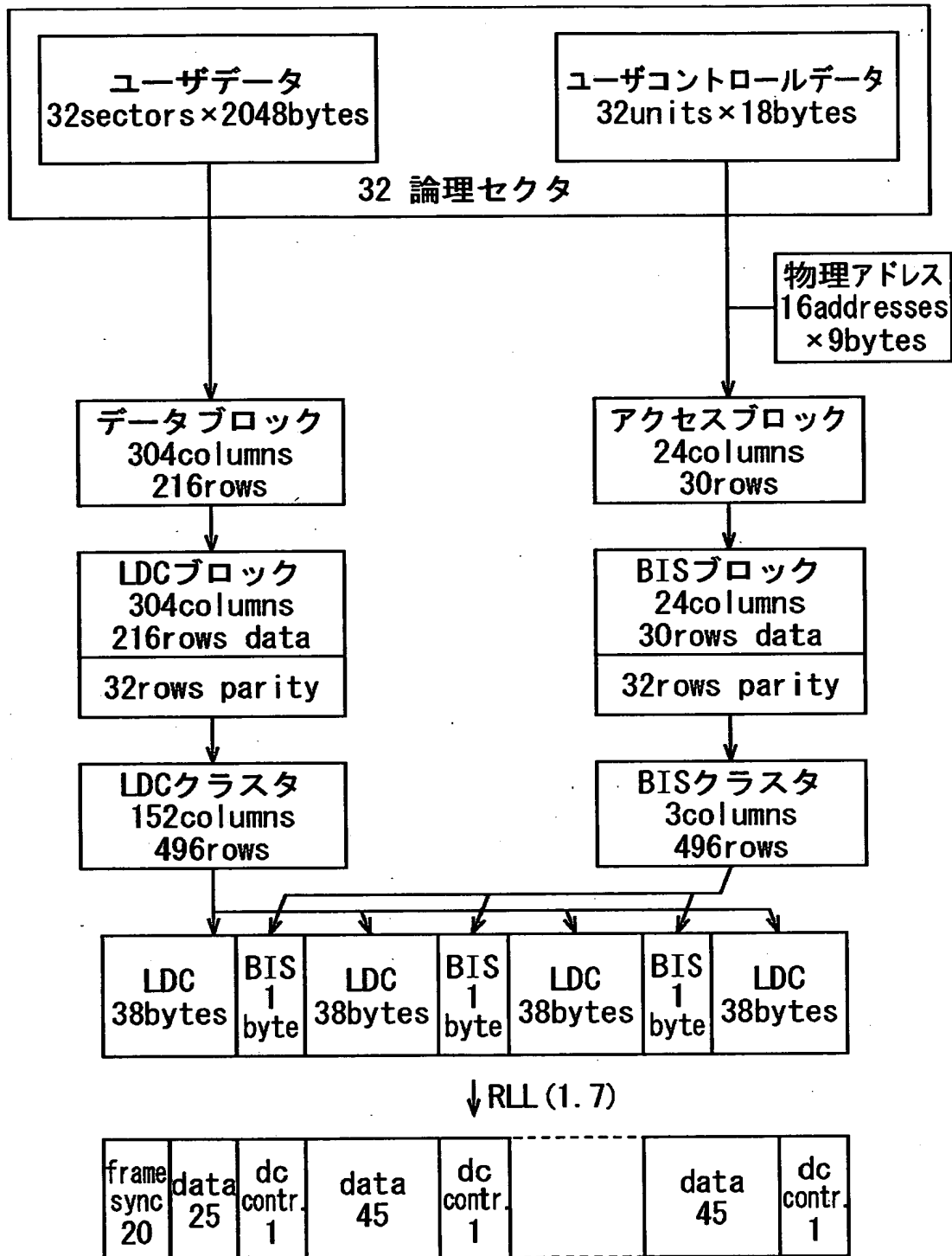
SM	VF01	PrA1	AM1	ID1	PoA1	VF02/DI	PrA2	AM2	ID2	PoA2
60	414	30	21	102	6	288	30	21	102	6

ランドヘッド62/グループヘッド64

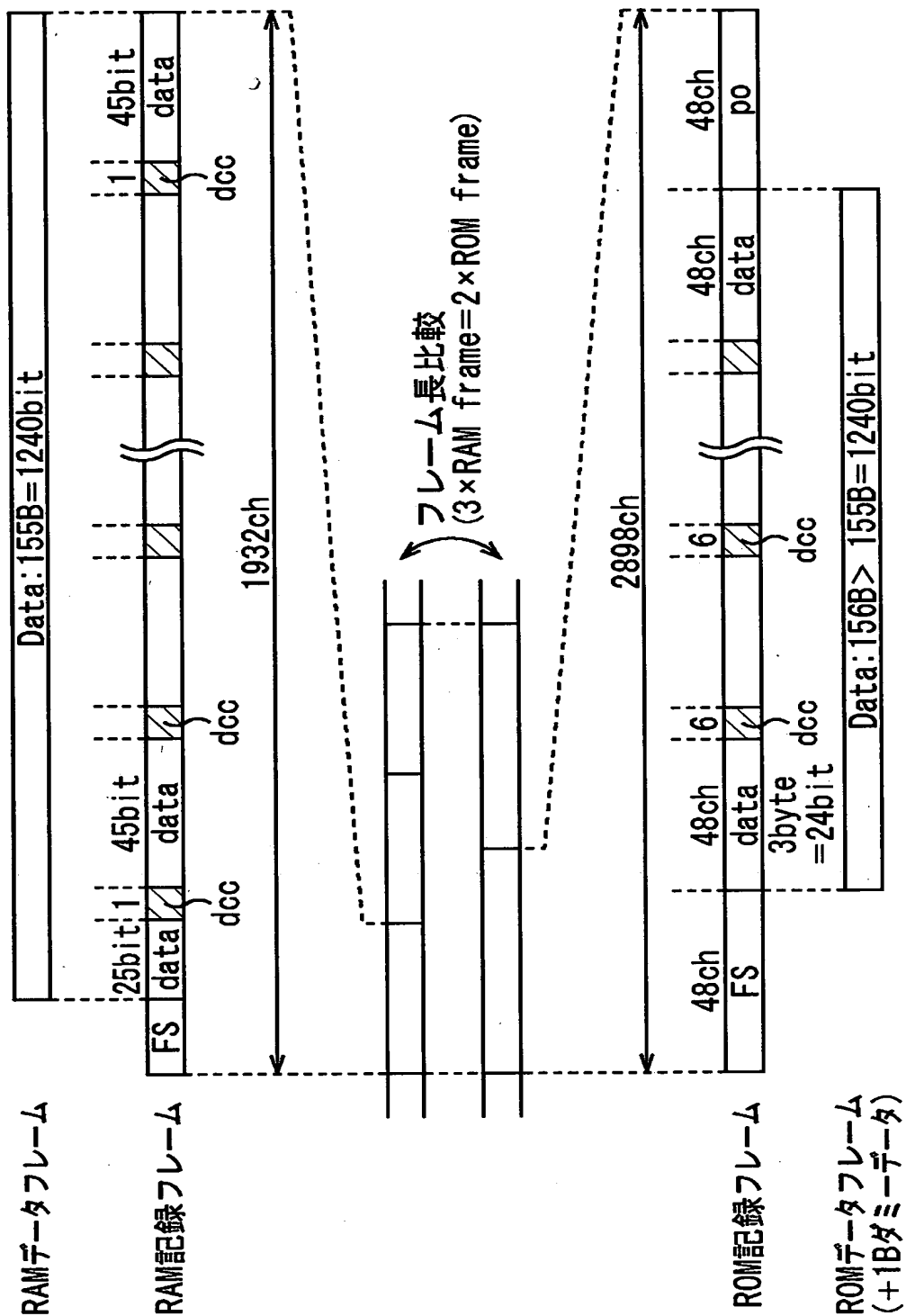
【図 7】



【図 8】



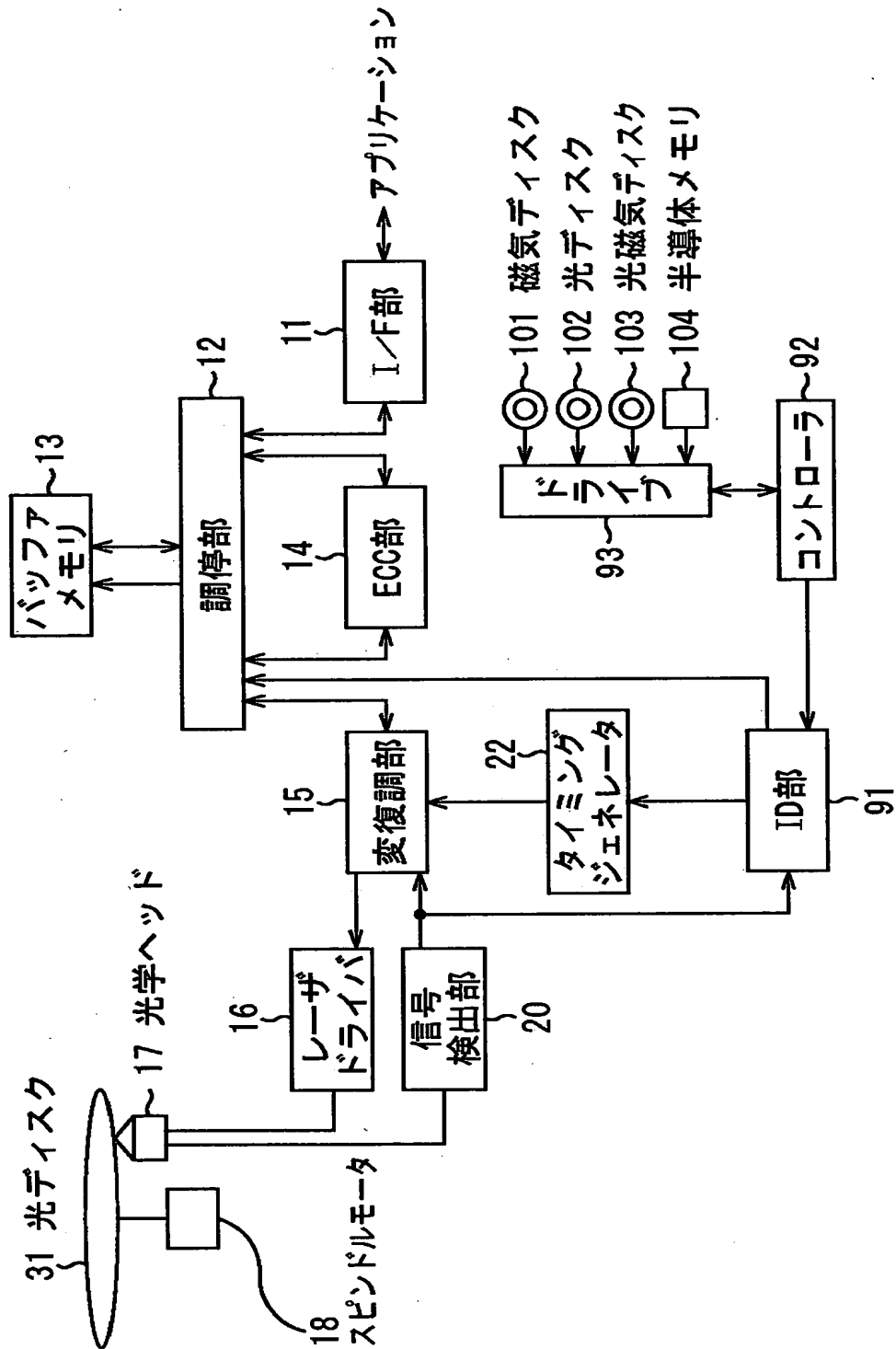
【図9】



【図10】

	コンテンツ	ゾーンナンバ	トータルフレーム (RAM) ／セグメント	データフレーム (RAM) ／セグメント	データフレーム (ROM) ／セグメント
ROM領域	ROMデータ	-6(-8)	(105	(102	68
	ROMデータ	-6(-7)	105(106)	102(103)	68
	ROMデータ	-6	105(107))	102(104))	68
RAM領域	test	-5	108	105	-
	test	-4	109	106	-
	test	-3	110	107	-
	test	-2	111	108	-
	DM	-1	112	109	-
	user data	0	113	110	-
	⋮	1	114	111	-
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

【図 11】



記録再生装置 81

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 RAM領域に対応したフォーマットでROMデータを記録する。

【解決手段】 RAM領域とROM領域のフレームの密度比は、RAM領域とROM領域のデータ密度比と近い数値で、簡単な整数比になるようにする。ROMデータは、RAMデータのプリビットアドレスと同様にRLL(2, 7)変調され、その単位毎に6チャンネルビットのd c cが挿入され、ROM記録フレームの先頭には48チャンネルビットのフレームシンク(FS)が付加され、ROM記録フレームの最後にはフレーム長を調整するためにポストアンプル(PO)が付加される。ROM記録フレーム1フレーム中には、156バイトのデータが記録できるが、RAMデータフレームと同様に155バイトのデータを記録し、ECCフォーマットより上位におけるデータの構成をRAMデータと同様にする。

【選択図】 図9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社